

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和7年11月17日

犬山市議会

議長 大沢 秀 教 様

議員 名 光 清 毅

下記のとおり、政務活動費により行政視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年11月10日(月)・11日(火) (1泊2日)
(2) 場 所	・東京都稲城市(市役所)、東京都調布市(市民文化会館たづくり、 青少年ステーションCAPS)
(3) 形 態	会派(創 犬 会)
(4) 内 容	別紙の通り
(5) 成果・提言	別紙の通り



政務活動費成果報告書別紙

◇稲城市 （面積：17.97km² 人口：94,116人）

介護支援ボランティア制度について

○内容

- ・稲城市では、全国で最初に平成19年度介護保健制度として介護支援ボランティア制度を実施している。
- ・制度としては、①介護支援ボランティア活動をしてスタンプ押印をもらう。②スタンプを集めてポイントに換える。③申請でポイントの交付金（最大5,000円）を受け取る。結果として、実質的な介護保険料負担の軽減に繋がっている。
- ・制度設計にあたっては、①地域課題の解決を目的として、しっかりと明確にする。②当事者である高齢者の意思を尊重する。③ボランティア関係者などの意見を尊重する。④制度を分かりやすくするとともに、事務量や経費などの負担を最小限にする。⑤これまでのボランティア登録やコーディネート機能を活用する。をポイントとした。
- ・介護支援ボランティアの登録や評価ポイントの管理、付与等は社会福祉協議会に市から委託している。
- ・介護支援ボランティア活動の対象事業は、稲城市内の施設又は場所における介護保険事業に関する活動であることや活動の結果によって、一定の介護予防の効果が見込まれることなどが指定要件となっている。具体的には、施設内でのお茶出しや配膳・下膳など施設職員と共に行う補助的な活動や話し相手、在宅高齢者のゴミ出しなど行っている。
- ・現在の登録者は、739名でポイント獲得者は171名、事業費はポイント費用と事務費などで昨年度1,018,582円となっている。

○成果・提言

- ・稲城市が全国初として始まった介護ボランティア制度は、高齢者自身の介護予防につながる社会参加に役立っており、費用対効果が高い事業の現状を視察することができた。
- ・この制度は、令和5年度には705市町村で実施されており、今後さらなる広がりが想定されるため、当市においても元気な高齢者を増やす取り組みとして、是非とも導入の検討について提案していきたい。

政務活動費成果報告書別紙

◇調布市文化会館たづくり

複合公共施設の現状について

○内容

- ・調布市文化会館たづくりは、調布駅前の立地特性を活かして建てられた、学習活動の場づくり、文化活動の場づくり等、様々な機能を一つにした公共施設で、館内には、喫茶、中央図書館、コミュニティFM放送局も設置している。
- ・たづくりは、麻の布を朝廷に献上していたことをいう調布のことを「たづくり」と読んでいたことから由来する。
- ・当日は、平日の午前中であり、使用されていない多目的ホールや映像シアターなどを見学することができなかったが、4・5階の中央図書館や展望ロビーには、多くの市民が訪れていた。

施設概要

- 1 F エントランスホール、むらさきホール（ダンス用）、リハーサル室
- 2 F くすのきホール（多目的ホール）、ギャラリー
- 4 F・5 F 調布市立中央図書館
- 6 F 視聴覚資料室、ハンディキャップサービス
- 7 F 保育室、授乳室
- 8 F 映像シアター、スタジオ
- 9 F 研修室
- 10 F 茶室、和室、調理実習室
- 11 F 創作室、みんなの広場
- 12 F 大会議場、展望ロビー

開館時間：8：30～22：00

休館日：月2日間、年末年始

○成果・提言

- ・犬山市においても、今後公共施設の複合化はさらに必要不可欠となってくるので、こうした事例を参考にして、どのような形があるか考えていきたい。

政務活動費成果報告書別紙

◇調布市（面積：21.58km² 人口：245,875人）

中・高生の居場所づくりについて

○内容

- ・調布市では、中・高生世代の子どもたちが思い思いに過ごせる場として、青少年ステーション「CAPS」を平成15年4月から開設している。
- ・事業のコンセプトとしては、中・高生に対して健全な居場所を提供し、スポーツや音楽、創作活動を支援し、自主的な運営をサポートすることとしている。
- ・施設は、旧民間スポーツスタジオを活用し、好きなように使えるロビーを始め音楽スタジオやダンススタジオ、クラフトルーム、スポーツエリアなどを設備している。
- ・特定非営利活動法人ちょうふこどもネットが市からの委託を受けて運営主体となっており、専門知識を持ったスタッフにより中・高生の活動のサポートの他、相談業務にあたっている。

年間予算 約1億円（施設借上料2,400万円他運営委託料等）

- ・主な事業としては、中・高生のための居場所事業の他、音楽・ダンス・クラフト・スポーツ・地域交流等13種の多様な事業を実施、夏・冬・春の3大イベントや音楽ライブとダンスイベント等も実施、地域でのボランティア活動にも参加している。
- ・支援スタッフ（ボランティア）の活用にあたっては、CAPSの卒業生から希望者を募り、本人の希望や特技を考慮した上で、それぞれの力を発揮してもらっている。
- ・CAPSでは、中・高校生世代の自主的な活動を支援し、自主性が育つような関わりを心がけている。そのため、情報は与えるが、様々判断はできるだけ委ねている。

○成果・提言

- ・調布市では、様々な困難を抱える子ども・若者とその家族をサポートする「調布市子ども・若者支援地域ネットワーク」が設置されており、青少年ステーションCAPSもその1事業として位置づけられている。
- ・CAPSの果たす役割や効果について、市担当者だけでなく現場で携わっているNPO法人関係者の詳細な説明を受け、その必要性を十分理解できた。
- ・犬山市においても、現在の中・高生に対する支援体制をよりわかりやすくするとともに、今後を見据えて居場所づくりについても検討してもらうことを提言していく。